

## 「2030 アジェンダ (SDGs) 実現と私たちの役割」

### 第1学年国際理解コース第2回模擬授業について

講師：南山大学 外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科 浅香 幸枝准教授

グローバリズムが広がっていく中で、日本という国は、そして日本人はどのように活路を見いだせばよ



開始直後の様子 国際ルームにて

いのか……。 「日本人」と言えば、勤勉で、手先が器用で、自己主張はあまりしない。義務教育を終えても英語は苦手。そんな印象が浮かびます。「移民」という言葉はどうでしょうか。生徒たちは「日本人移民」という言葉を耳にしたことはあっても、多くは知らないと言いました。しかし、かつて国境を越え海を渡り、母国とは全く違う環境で自分たちの生きる術を見つけた人々が日本にもいるということは、未来の希望となるかもしれません。

比較的暖かな午後、国際ルームのパソコンを立ち上げた状態で、どんな話が始まるのか、生徒は少し緊張した面持ちでした。はじめは児童書の話から始まり、「Nikkei」

という日系移民を示すキーワードが登場した際、その二つの言葉にどんなつながりがあるのか、生徒はまだ戸惑っていました。しかし浅香先生の温かな人柄と積極的なインタラクションにより、だんだんと緊張もほぐれ、先生の話に聞き入っている様子が見られました。とりわけトランプ元大統領の対中国政策、および日本と中国の ODA の違いを話していただいているときには、教室の後方で話される先生の方へ全員が椅子を向け、真剣に聞き入っている様子がありました。

「日本は人を派遣する。魚をあげるのではなく魚の釣り方を教える」という先生のお話により、今まで教科書に載っているだけであった ODA という単語が生徒たちに真に理解されている様が見られました。

また、南山大学の日本語教育では児童書を用いることもあるという話を伺いました。講義後の感想シートでも児童書の話に触れている生徒は多かったです。児童書は未来を作る子供のために書かれているからこそ、最新の価値観が取り入れられているうえ、各国の文化がよく表れており、他文化を学ぶ上でよい教材になるという話が印象的でした。

私個人としても、政治というと「国」が行っている印象でしたが、「Nikkei」の人々と日本の話を伺い、人が国を作り、動かしているということを改めて感じる事が出来ました。日本の地デジ技術があまり高くなかったにも関わらずブラジルで競り勝つことが出来たのは、Nikkei の技術者がいてくださったからだという話も大変興味深かったです。先生のお話を通して生徒も、出生国と日本という二つのナショナルリティを持つ「Nikkei」の人々が、日本と相手国の架け橋になってくださるありがたさを理解することが出来たようです。



教室の後方で話される浅香先生と話聞く生徒

第4次産業革命を迎え、あらゆる境界がなくなっていく中で、「〇〇人」という感覚も薄れてきています。しかし今回のお話で「Nikkei」の人々の中には、両国のことを理解し、愛しているからこそ手助けをしてくださる方がいることがわかりました。グローバル化とはまったくのボーダーレスになるのではなく、「日本人」というアイデンティティは持ちながら、違いを多様性として認めていくことでもあるのかもしれない、と啓示を受けた講義でした。

### 生徒の感想より

- ・スペイン語のバックグラウンドがどれだけ広いのかを見て、最初は「へえーすごい」と他人事のように思っていたのですが、だんだん現実味を帯びて、情報はいたるところにあるのに、私の目が閉じているだけだという実感が湧きました。
- ・どの国に同県の移民が多いというのが決まっていることが印象的でした。私の感覚では、日系の方や移民の方は完全に現地の人で、少し日本語も話せるくらいのイメージだったから、日系というくくりで移動しているというのは驚きました。
- ・IBBY のことが一番印象に残りました。物語を通して、世界のできごとや文化、問題に触れることで、より分かりやすく学ぶことが出来るのではないかと思いました。
- ・日系の人は何となく遠い存在のように考えていたが、実際は近くにいる、日本を支えてくれている人が多いことがわかりました。
- ・今、学校でタブレットを配られたように若者として情報に強くなりたいと思いました。

今回の講義を通して、「Nikkei」や「IBBY」といったお話の内容にはもちろん、大学での勉強について、そして生き方についても生徒にとって非常に良い刺激となりました。素晴らしいご講義をありがとうございました。

(1年国際理解コース 担任)



PCを使って生徒に説明をしてくださる浅香先生



椅子を動かして先生の話に聞き入る生徒たち